

日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

様式 F-7-2

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実績報告書（研究実績報告書）

		機関番号	32604
所属研究機関名称	大妻女子大学		
研究代表者	部局	人間関係学部	
	職	教授	
	氏名	鄭 暎恵	

1. 研究種目名 基盤研究(C)(一般) 2. 課題番号 26380696

3. 研究課題名 「表現の自由」とヘイト・スピーチ法規制をめぐる社会学的研究

4. 補助事業期間 平成26年度～平成29年度

5. 研究実績の概要

初めてヘイトスピーチを聞いた時「反感を感じた」71.9%、「驚いた」61.1%、「恐怖を感じた」49.7%の一方、「共感した」8.3%。「街頭と一緒にヘイトスピーチを唱えたい」1.7%、逆に「街に出てカウンター行動に参加したい」は10.4%。ヘイトスピーチを繰り返すうちに「違和感が増加した」52.8%、逆に「違和感が減少した」10.4%。  
 ヘイトスピーチを「表現の自由」と見なすのは23.4%、「法で規制すべき」は47.6%。法規制すべきなのは、「人権を侵害する言動」76.3%、「特定の社会的弱者への憎悪表現」10.9%、「表現の自由を侵害する言動」38.2%、「思想信条の自由を侵害する言動」37%、「特定の政治家への憎悪表現」10.9%。  
 外国人が増える結果として「日本の文化が豊かになる」70.7%、「社会の活性化」70.4%、「経済の活性化」59.2%、「日本人の働き口が奪われる」34%、「日本の文化がそなわれる」22.5%。グローバル化で競争は激化、労働条件は悪化し、貧富の格差も拡大、将来への不安や閉塞感が増す中、少子高齢化で日本経済の停滞が懸念されるため、外国人に肯定的期待を寄せる者は少なくないが、外国人が対等・優位になり自分の既得権益が脅かされたり、追い抜かれる場合に排他的な傾向が強まる。「全体主義、排外主義ではなく、一人一人が大切にされ、お互いの個性、豊かさを尊重する、豊かさを分け合い、共に生きる社会を望んでいます。ヘイトスピーチをする人々は社会の中で自分が大切にされているという実感が無いのではないのでしょうか」（日本籍女性・自由記述より）  
 ヘイトスピーチのターゲットとされた人々のアイデンティティにダメージを与える、特に子どもの成長に悪影響が大きいと考えられている。コミュニティの中で生きる場合より、孤立無縁でカミングアウトせずに生きる方がダメージが深いと思われる。

6. キーワード

ヘイトスピーチ 表現の自由 法規制 外国人 排外主義 アイデンティティ 人権 共生

7. 研究発表

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 宮城晴美・高里鈴代・安次嶺美代子・山城紀子・川田文子・秋林こずえ・鄭暎恵・大嶋果織・山下明子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 御茶の水書房	5. 総ページ数 201ページ
3. 書名 沖縄にみる性暴力と軍事主義	

8. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件／うち取得0件）

【研究代表者・所属研究機関控】

日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

9. 科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

10. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

—

11. 備考

—